

(15) 大学院 看護学研究科

時期	入学前・入学時	在学中	卒業時・卒業後
評価基準	アドミッション・ポリシーを満たす人材か	カリキュラム・ポリシーに即して学修が進められているか	ディプロマ・ポリシーの各項目を満たす人材になったか
カリキュラム	<p>【博士前期課程】 入学者選抜試験</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般選抜 小論文、外国語（英語） 専門科目、面接 社会人選抜 小論文、面接 <p>【博士後期課程】 入学者選抜試験</p> <p>小論文、外国語（英語）、 面接</p>	<p>セメスター又は学年ごとで、以下の項目について単位取得状況により、評価を行なう。</p> <p>【博士前期課程】</p> <p><共通></p> <ol style="list-style-type: none"> 看護実践を科学的・論理的に探求できる。 高い倫理性を身につけ、看護の質向上に関与できる。 <p><研究者コース></p> <ol style="list-style-type: none"> 実践に即した研究課題を明確にし、適切な方法を選択して研究に取り組むことができる。 看護職の教育的機能を理解し、現任教育や基礎教育に関わることができる。 <p><専門看護師コース（精神看護学・老年看護学・災害看護学）></p> <ol style="list-style-type: none"> 高度な専門知識と技能を有し、基本的な研究力を修得している。 高度な実践を遂行できる力と協働する力を修得している。 グローバルな視点を持ち、地域に根ざして行動する力を身につけている。 地域社会を牽引するリーダーシップ力と調整力を身につけている。 <p>【博士後期課程】</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間と命の尊厳に対する深い理解と看護現象に対する洞察力ならびに自立して研究を遂行できる研究力を修得している。 健康問題／課題解決に向けて、グローバルな視点で探求し教育できる力を修得している。 看護学の発展に寄与するとともに、研究結果を国内外に向けて発信できる力を身につけている。 	<p>看護学研究科のディプロマ・ポリシーで掲げる資質・能力をもつ人材になったかを、以下の方法により総合的に評価します。</p> <p>【博士前期課程】</p> <p><修了時></p> <p>修士論文審査</p> <p>以下の6項目の審査基準によって総合的に判断する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 研究課題、目的及びその意義が明示されている。 科学的研究手法に則って、研究が実施されている。 四天王寺大学倫理審査委員会の承認を経て、研究が実施されている。 研究実施の過程と研究成果が明示されている。 学術論文体系に則って記述されている。 研究者コース：申請者の新たな知見を加え、そこに創造性が認められる。 専門看護師コース：専門領域の看護実践の質向上につながる研究である。 <p>最終試験</p> <p>ディプロマ・ポリシーで掲げる項目について、口頭試問によって総合的に判断する。</p> <p><修了後></p> <ul style="list-style-type: none"> 共通：学位取得者数、就職先・人数 専門看護師コース：外部認定審査 <p>【博士後期課程】</p> <p><修了時></p> <p>博士論文審査</p> <p>以下の7項目の審査基準によって総合的に判断する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護学における博士としての十分な知識と研究能力を有し、看護学の発展に寄与できる。 四天王寺大学倫理審査委員会の承認を経て、研究が実施されている（人を対象とした研究の場合） 研究の背景・意義について、先行研究の検討に基づいて明確に記述されている。 先行研究や資料が適切に取り扱われており、当該研究分野における研究の水準に達している。 当該研究領域の博士論文として、独自の研究結果に基づき一貫した論旨で構成されている。 当該研究領域の理論的見地または実証的見地からみて、新規性、創造性、重要性、有用性が認められる。 論文審査委員会におけるの発表や質疑応答の内容が適切である。 <p>最終試験</p> <p>ディプロマ・ポリシーで掲げる項目について、口頭試問で総合的に判断する。</p> <p><修了後></p> <ul style="list-style-type: none"> 学位取得者人数 就職先・人数
科目		成績評価（レポート、試験、プレゼンテーションなど）	
学生	研究指導および学会参加などを通して自己省察あるいは知見を得る。		